

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075600124		
法人名	社会福祉法人 若宮会		
事業所名	グループホーム わきたの里		
所在地	福岡県宮若市脇田805番地 (電話) 0949-54-1082		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果確定日	平成24年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームわきたの里は静かな山間に位置し、「地域の方々と交流し、お互い助け合い、いつも笑いのたえないような施設を目指します。」との理念の下、入居者様・職員それぞれが能力を発揮できるような環境作りに力を入れています。職員は入居者様の思いに寄り添い「人生の1ページに携わる事が出来る喜びや感謝」を実感出来る様に自己研鑽に励んでいます。入居者様も出来る事には積極的に参加され、掃除や洗濯物たたみなどで活躍していただいています。ホームでの日常生活が「これまで歩んできた人生」を思い返すきっかけになっているようです。また、行事にも力を入れており、いつもたくさんの笑顔に出会っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年12月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然豊かな山里に位置しており、緑に囲まれた閑静な環境の中で、母体施設の特別老人ホームにも隣接している。リビング・廊下などは広く、利用者はその人らしくゆったりしたペースで生活している。介護に関しても利用者の思いや要望を大切に、利用者や家族が安心してサービスを受けられるよう、職員で話し合っただけで決めた理念の実践に向けて日々取り組んでいる。事業所は利用者や家族、職員などの率直な意見や要望を聴いたり、職員の有給休暇や資格取得を推奨したり、勤務のシフト作りなどして働きやすい明るい環境作りを目指している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がそれぞれの意見を出し合い、作り上げた理念という意識を持ち、初心を忘れない為にも毎朝の申し送りで唱和している。また、職員会議等でも理念を基礎とした統一した介護を提供する為の意見交換を行っている。	職員が作った「地域の方々と交流し、笑顔で安心・納得出来るサービスを提供する」という事業所独自の理念がある。管理者と職員は理念の実践に向け、統一したサービスを提供するために、毎朝礼や職員会議時に理念を呼唱和し、共有と実践に向けて日々ケアのサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉祭りに作品を出品したり、慰問に来られた方々と交流を持てるように配慮している。また、地域の一員としての意識を持てるように市報便りや新聞のニュース等の情報を提供するように心掛けている。	地域行事の文化祭に利用者の作品を出品し、参加している。事業所行事のクリスマス、お雛様祭りには近隣の幼稚園児が参加し、お遊戯など披露したり、敬老会では近隣の方々に紅白饅頭を配ったりしている。ボランティアの舞踊や腹話術など受け入れ、近隣の人から花や野菜を頂く等地域と交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学生の職場体験学習等の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、入居者様代表、ご家族代表、地域の方や市役所職員に参加して頂き開催している。参加メンバーからは率直なご意見や質問を頂いており、日常の介護に意見を反映出来る様努力している。	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、サービスの利用状況や評価への取り組みなど報告している。委員からは利用者のインフルエンザの予防接種の施行や災害時の避難確認の方法や緊急時のアドバイスなど、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新手続きや他の手続きの際に市役所を訪問し、現場の状況を積極的に伝えるようにしている。また、分からないこと等も積極的に質問し、協力関係を築く努力をしている。	行政には介護保険手続きやわからないことなど、積極的に連携を図っている。宮若市の市報を使って利用者にもその内容を説明するなどして利用者から好評を得ている。今後は事業所便りを行政に持参して、事業所の状況を報告したり、便りやパンフレットを行政に設置するために事業所便りの見直しを予定しているとのこと。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や計画作成者、介護職が身体拘束に関する研修会等に積極的に参加出来る様な体制を整えている。また、職員同士の注意喚起にて身体拘束を行わないケアを提供している。	日中は、居室・玄関は施錠していない。玄関にセンサーを設置している。管理者が外部研修を受け、職員には内部研修をしている。職員間では日頃から「拘束」に関して、互いに注意しながら支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や計画作成者、介護職が虐待に関する研修会や勉強会に参加出来る様な体制を整えている。また、日常生活において心理的虐待や身体的虐待の無い様に職員が注意喚起している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成者、介護職が権利擁護に関する研修会や勉強会に参加出来る様な体制を整えている。また、サービス担当者会議の際に個々に必要な支援を念頭に置いた話し合いを行い、必要であれば管理者や計画作成担当者より制度についての説明をご家族に行っている。	制度に関して、利用者・家族には契約時に説明している。管理者は外部研修を受けている。テキスト・研修記録などがある。	外部研修に参加できなかった職員に伝達研修を開催する等し、全職員が制度について理解を深めることができる取り組みを行ってほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に十分に時間をとり、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、ケアの内容についても理解を求めている。退去の際も、継続した支援が受けられるように助言を行っており、疑問・質問点にも納得がいくまで話し合いを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で投書可能な苦情ご意見受付ポストを設置している。また、苦情受付窓口を重要事項説明所に明記し、事業所内にも掲示している。面会の際に職員が必ずご家族に声掛けし、率直な意見を頂けるような関係作りに励み、職員会議等で報告する様努力している。	家族代表が運営推進委員会に出席しており、意見や要望、苦情を述べる機会はある。また、家族来訪時に声かけし、積極的に意見や思いを聴いて、家族の意見を運営に反映している。意見箱を設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的で開催し、率直な意見を聞く機会の提供を行っている。また、良いアイデアを実施出来る環境作りにも配慮している。管理者も気軽に話が出来様な関係作りを意識しながら職員と接しており、発言しやすい職場を目指している。	職員は日常的に運営に対する意見や提案、勤務に対する希望など言い易い環境となっている。日頃の利用者への支援について等、職員の気づきなど運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心身のリラックスの為に有給休暇を積極的に利用するよう代表者は指導している。また、勤務態度や努力を賞与に反映しており、職員のやる気につながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性別や年齢ではなくやる気や介護に取り組む姿勢などを参考にしている。 また、個々の能力に応じての役割を担えるよう配慮しており、生き生きと働ける職場を目指している。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。有給休暇取得を積極的に勧めたり、資格取得を目指す職員を自己実現できるように配慮したり、勤務しやすいシフトづくりなどを行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権」を職員一人ひとりが意識付け出来る様にDVD等を活用した勉強会を行っている。 今後は外部研修等にも参加出来る様な環境を作っていく。	職員が外部研修を受講しているが、参加できなかった職員へは伝達研修等行っていない。 パンフレット・研修記録・報告書などがある。	外部研修に参加できなかった職員に伝達研修を開催する等し、全職員が人権について理解を深めることができる取り組みを行ってほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により研修会等に参加し、職員会議にて他の職員に伝達・報告している。会議に参加できない職員に対しては、いつでも閲覧出来る様に記録を作成している。 また、新入職員に対しては主な指導は主任が行い、職員がサポートする体制を整えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の徘徊ネットワークや高齢者見守りネットワークに参加している。 また、外部研修の際にはネットワーク作りを意識し、積極的に意見交換を情報交換を行い、相互のサービスの向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時より、不安の軽減やニーズの把握が出来る様に話を傾聴する事を大切にしている。 入居後は安心していただけるよう常に寄り添うこと心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時より、不安の軽減やニーズの把握が出来る様に話を傾聴する事を大切にしている。 また、入居後も疑問や不安の解消や要望を伝えられるような関係作りを目指し、積極的に職員が声を掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にアセスメントを記入することで必要な情報収集を実施しているが、データには反映されない隠れたニーズや思いを把握出来る様、対話の機会を大切にしている。情報を元に介護支援専門員がアドバイザーとなり、必要な支援を見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の先輩である」「尊い人生に関れる喜び」を個々の職員が意識しており、対応に自然に現れている。入居者様が得意分野で力を発揮出来る様な環境を作り、お互いが支え合っている関係を意識出来る様にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻回に面会に来られる家族には、対面にて随時報告・相談を行っている。面会が難しい家族には書面にて報告・相談を行い関係の継続を図っている。また、ご家族には何かあれば直ぐに連絡いただけるよう声掛けをしており、家族も入居者様を支える大事な立場であることの啓発、サポートを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の思い出の場所や馴染みの場所を教えていただき、買い物や外出の際に訪れるようにしている。また、ご家族に了承を頂いた上で友人との関係が絶えないように連絡（手紙や電話）を支援している。	職員は馴染みの人や場所については把握している。ドライブや通院の途中で馴染みの場所に立ち寄ったり、知人に電話をかける等これまでの関係が途切れないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際、仲の良い入居者様同士が同じテーブルに座っていただけるように配慮したり、余暇の時間も話しがはずむように茶菓子を出すなどして入居者様同士が緊張せずに話が出る環境を提供している。孤立しがちな入居者様に関しては、職員が間に入るなどの工夫をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された入居者様の面会に伺ったり、転居された施設等に面会に向いている。また、継続した支援が受けられるよう積極的に情報の提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者が主に入居者様の意向を把握するように話を傾聴したり、ご家族に今までの生活歴を伺っている。 意思表示が困難な入居者様に関しては、表情やしぐさで思いを汲み取るよう努力している。	利用者との日々の関わりの中から思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しても、表情や仕草等からその方の思いの把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様がこれまでの生活歴を活かし、「自分らしい」生活を継続することが出来る様にご本人から話を伺ったり、入居時や面会時にご家族に確認している。 今後はセンター方式等を生かしていきたい。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、ケア記録等で現状を確認している。 今後はセンター方式を利用し、より入居者様らしい生活が送れる様に支援していきたい。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当をメインに情報収集を行い、サービス担当者会議を開催している。 また、入居者様本人の意思も反映できるようにサービス担当者会議への参加を促しているが、なかなか実現出来ておらず、ご家族の意向も踏まえた介護計画の作成が課題である。	本人や家族の要望を担当の職員が把握し、他の職員や主治医にも意見を聞きながら、ケアマネージャーが作成している。ケア実践を日々確認しながら3ヶ月毎に担当者会議でモニタリングを行い、6ヵ月毎に、また状態変化の都度プランの見直しを実施している。家族からは介護計画を了承した署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な事でも気づきをケア記録に記入するよう努力している。 また、朝・夕の申し送りや職員会議の際に情報の共有をし、実践に生かせるよう配慮している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、介護職員もしくは介護支援専門員、管理者が対応しているが、必要に応じては外部サービスの紹介も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書が好きな入所者様に図書館の利用を支援したり、花の好きな利用者様に地域の方と一緒に手入れしていただくような工夫や支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人や家族からかかりつけ医を伺っている。特にご希望がない場合はホームの協力医に往診を依頼しているが、かかりつけ医を希望される場合は、引き続き受診が出来る様な支援を行っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるように支援している。他科受診や協力病院以外のかかりつけ医を診療する際は、原則家族が付き添っているが、付き添えない場合は事業所に対応している。受診後の連絡方法は、家族と話し合っ決めて	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特別養護老人ホームの看護師がホームの協力医に往診を依頼しているが、かかりつけ医を希望される場合は、引き続き受診が出来る様な支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は管理者か介護支援専門員が病院に出向き、介護計画やアセスメントを参考とした情報の提供を行っている。 退院時は事前に病院側とカンファレンスを開催し、ホームでの生活を継続する為に必要な情報を共有している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化・終末期介護に関する指針」を取り決め書面にしており、入所時に本人・ご家族に説明を行っている。 ご本人や家族の望まれる介護を実践する為に終末期に医療や馴染みの人も含めた会議を開催することが目標である。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、明文化されている。入所時や折に触れて支援方法を本人や家族、職員やかかりつけ医等と話し合っており、本人や家族の意向に沿った支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームで応急処置のマニュアル、かかりつけ医一覧を作成し、いつでも回覧出来る様にしている。 また、緊急時に慌てないように職員会議等で実践力を身につけるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練を1年に2回開催しており、隣接の特別養護老人ホームとも協力体制を作っている。 また、消防署にも訓練に参加していただき、適切な助言や意見を伺いながら、安全な避難方法の確立も目指している。	消防署の協力を得て、母体法人与合同で年2回訓練を実施し、避難訓練、避難経路の確認や消火器の使い方等を利用者と共に訓練している。又、折に触れて事業所独自で避難訓練を利用者と行っている。運営推進会議で地域住民へ訓練の参加を呼びかけている。食料品や水、毛布等の非常用備品は事業所内に常備している。	非常用の食料品等については、期限等に留意し、定期的に点検してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員が中心になり、尊厳のある対応や自尊心に配慮した言葉遣いを行っているか、適切な対応を行っているかの確認を行っている。不適切な言動があれば介護職同士で注意できる環境作りも行っている。	接遇委員会を事業所内に設けており、管理者及び職員間で利用者に対する声かけや対応に気をつけている。内部研修やその都度対応を確認している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなった入居者様に対しては、残存能力に働きかけたり、表情やしぐさで感情を読み取る努力をしている。ご家族にも協力していただき、自己決定実現の為に支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れはおおよそ決まっているが、食事や入浴、就寝時間はご本人の希望に添うよう努力している。 また、レクリエーションや生活リハビリ等も個々で選んでいただいている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出等はご本人と相談しながら洋服などを選んでいく。自己決定が難しい方は職員が気候や好みに配慮しながら適切な洋服を選んでいく。 また、美容院に行くのが困難な方の為に訪問美容を利用しており、その人らしい髪型が出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者のサービスを依頼しているが、入居者様が得意な料理は一緒に作ったりしている。 また、嗜好調査等を行い、業者との意見交換の場を設け、好みの物を提供出来ている。	利用者ができる範囲でテーブル拭きや片付け等を一緒に行っている。一人の職員が検食し、他職員は別の食事を利用者と一緒に談笑しながら食べている。月一回の誕生日や季節に応じたメニューを利用者の要望を取り入れ、食事を楽しむ工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事に摂取量の把握を行っており、必要な方は医師の指示の元で経口栄養剤を提供している。 また、お茶だけではなく、ジュースやコーヒー、抹茶等の嗜好に合う物を提供し、水分量の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝食前と夕食後にそれぞれの能力に応じた支援を行っている。 毎食後には緑茶を使用し、うがいをさせていただいており、口腔内の汚れや臭いが生じないようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	口腔ケアは朝食前と夕食後にそれぞれの能力に応じた支援を行っている。 毎食後には緑茶を使用しうがいをさせていただいており、口腔内の汚れや臭いが生じないようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、尿パット等についても利用者の状態に応じて随時使用の有無等を検討し、排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の誘導時はブライドの尊重に気を配っており、さり気なく誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個々の排便パターンの把握を行っており、便秘傾向の入居者様に対しては医師と相談し適時、適量の緩下剤を使用している。 また、便秘予防として朝食事に牛乳や野菜ジュースなどを提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者様の体調、希望に合わせて入浴時間を配慮している。 入浴を嫌がられる方に対しては、無理強いせず気分転換を促したり、一緒にお茶を飲むなどの配慮をしてから再度声掛けを行っている。	入浴時間は、利用者の生活習慣や状態、希望に合わせて支援を行っている。利用者から要望を聴き、入浴後にジュース等を提供する等、利用者が入浴を楽しめるように工夫している。入浴を拒否される利用者には、声掛けを工夫して入浴できるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のある入居者様に対しては、日中の活動を促すなどの配慮をし、夜間に睡眠が取れるよう支援している。それでも休まらない場合は日中に短時間昼寝していただくなど睡眠時間を確保している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳や薬剤提供シートを活用し、服薬している薬に関しての用法や副作用等を把握する努力をしている。 また、誤薬を防ぐ為に服薬時に名前、日付、服用時間の再確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩が好きな入居者様は散歩に出かけられたり、花の手入れが好きな入居者様にはプランターの世話を願ったりと個人個人が張り合いや喜びのある生活を送っていただけるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い入居者様をご自宅にお連れして大変喜ばれた経験があり、職員で対応が可能な場所には職員が、遠方の場合にはご家族にお願いして外出を支援しており、ホームに閉じこもることがないように支援している。	天候や利用者の体調や希望に応じて、園内の散歩をしたり、3ヶ月に1回程度花見やドライブに出掛ける支援を行っている。また、家族の支援を得て外泊や買い物に出かけられるように支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者様は家族と話し合い、金額を決め所持していただいております。ホームでの外出や、買い物等に参加して頂き実際に支払いを行う支援をしている。 金銭の管理が難しい方については職員が支払い等を行うが、品物は選んでいただく等の配慮をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により公衆電話の利用の支援をしたり、代筆等で手紙を出す支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を心がけ、花や緑をおきリラックスできる空間を演出している。 また、手作りの作品等を掲示し、季節感を演出し、落ち着いた環境を提供している。	利用者がレクリエーションで作成した貼り絵や飾り物で共有空間に飾られている。居間や廊下が広く、ソファや畳の間が置かれたりビングダイニングで利用者がゆっくりと寛いでいる。不快な音や光等混乱を招くような刺激はない。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の親密度に応じてソファの位置を調整したり、一人になりたい方には雑踏から離れた場所に椅子を準備するなどし、個々の希望に応じた居場所の提供をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた家具や仏壇を持参していただき、心地よく過ごせるように配慮している。 また、ベッドも心身機能に応じたものを選んで頂き、ご希望の方には畳を敷き布団で眠れるようにしている。	使い慣れた家具、テレビ、仏壇等が持ち込まれ、家族の写真や花鉢、レクリエーションで作った作品等が飾られ、それぞれの利用者の個性が活かされた居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	鉄骨作りで柱を余分に使用していないために開放感の有る広々とした環境を提供しており、歩行器や車椅子でも生活出来るような工夫がなされている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がそれぞれの意見を出し合い、作り上げた理念という意識を持ち、初心を忘れない為にも毎朝の申し送りで唱和している。また、職員会議等でも理念を基礎とした統一した介護を提供する為の意見交換を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉祭りに作品を出品したり、慰問に来られた方々と交流を持てるように配慮している。 また、地域の一員としての意識を持てるように市報便りや新聞のニュース等の情報を提供するように心掛けている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学生の職場体験学習等の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、入居者様代表、ご家族代表、地域の方や市役所職員に参加して頂き開催している。参加メンバーからは率直なご意見や質問を頂いており、日常の介護に意見を反映出来る様努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新手続きや他の手続きの際に市役所を訪問し、現場の状況を積極的に伝えるようにしている。また、分からないこと等も積極的に質問し、協力関係を築く努力をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や計画作成者、介護職が身体拘束に関する研修会等に積極的に参加出来る様な体制を整えている。また、職員同士の注意喚起にて身体拘束を行わないケアを提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や計画作成者、介護職が虐待に関する研修会や勉強会に参加出来る様な体制を整えている。また、日常生活において心理的虐待や身体的虐待の無い様に職員が注意喚起している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成者、介護職が権利擁護に関する研修会や勉強会に参加出来る様な体制を整えている。また、サービス担当者会議の際に個々に必要な支援を念頭に置いた話し合いを行い、必要であれば管理者や計画作成担当者より制度についての説明をご家族に行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に十分に時間をとり、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、ケアの内容についても理解を求めている。退去の際も、継続した支援が受けられるように助言を行っており疑問・質問点にも納得がいくまで話し合いを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で投書可能な苦情ご意見受付ポストを設置している。また、苦情受付窓口を重要事項説明所に明記し、事業所内にも掲示している。面会の際に職員が必ずご家族に声掛けし、率直な意見を頂けるような関係作りに励み、職員会議等で報告する様努力している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的開催し、率直な意見を聞く機会の提供を行っている。また、良いアイデアを実施出来る環境作りにも配慮している。管理者も気軽に話が出来る様な関係作りを意識しながら職員と接しており、発言しやすい職場を目指している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心身のリラックスの為に有給休暇を積極的に利用するよう代表者は指導している。また、勤務態度や努力を賞与に反映しており、職員のやる気につながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性別や年齢ではなくやる気や介護に取り組む姿勢などを参考にしている。 また、個々の能力に応じての役割を担えるよう配慮しており、生き生きと働ける職場を目指している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権」を職員一人ひとりが意識付け出来る様にDVD等を活用した勉強会を行っている。 今後は外部研修等にも参加出来る様な環境を作っていく。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により研修会等に参加し、職員会議にて他の職員に伝達・報告している。会議に参加できない職員に対しては、いつでも回覧出来る様に記録を作成している。 また、新入職員に対しては主な指導は主任が行い、職員がサポートする体制を整えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の排泄ネットワークや高齢者見守りネットワークに参加している。 また、外部研修の際にはネットワーク作りを意識し、積極的に意見交換を情報交換を行い、相互のサービスの向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時より、不安の軽減やニーズの把握が出来る様に話を傾聴する事を大切にしている。 入居後は安心していただけるよう常に寄り添うこと心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時より、不安の軽減やニーズの把握が出来る様に話を傾聴する事を大切にしている。 また、入居後も疑問や不安の解消や要望を伝えられるような関係作りを目指し、積極的に職員が声を掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にアセスメントを記入することで必要な情報収集を実施しているが、データには反映されない隠れたニーズや思いを把握出来る様、対話の機会を大切にしている。情報を元に介護支援専門員がアドバイザーとなり、必要な支援を見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の先輩である」「尊い人生に関れる喜び」を個々の職員が意識しており、対応に自然に現れている。入居者様が得意分野で力を発揮出来る様な環境を作り、お互いが支え合っている関係を意識出来る様にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻回に面会に来られる家族には、対面にて随時報告・相談を行っている。面会が難しい家族には書面にて報告・相談を行い関係の継続を図っている。また、ご家族には何かあれば直ぐに連絡いただけるよう声掛けをしており、家族も入居者様を支える大事な立場であることの啓発、サポートを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者様の思い出の場所や馴染みの場所を教えていただき、買い物や外出の際に訪れるようにしている。また、ご家族に了承を頂いた上で友人との関係が絶えないように連絡（手紙や電話）を支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際、仲の良い入居者様同士が同じテーブルに座っていただけるように配慮したり、余暇の時間も話しがはずむように茶菓子を出すなどして入居者様同士が緊張せずに話が出る環境を提供している。孤立しがちな入居者様に関しては、職員が間に入るなどの工夫をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された入居者様の面会に伺ったり、転居された施設等に面会に出向いている。また、継続した支援が受けられるよう積極的に情報の提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者が主に入居者様の意向を把握するように話を傾聴したり、ご家族にこれまでの生活歴を伺っている。 意思表示が困難な入居者様に関しては、表情やしぐさで思いを汲み取るよう努力している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様がこれまでの生活歴を活かし、「自分らしい」生活を継続することが出来る様にご本人から話を伺ったり、入居時や面会時にご家族に確認している。 今後はセンター方式等を生かしていきたい。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、ケア記録等で現状を確認している。 今後はセンター方式を利用し、より入居者様らしい生活が送れる様に支援していきたい。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当をメインに情報収集を行い、サービス担当者会議を開催している。 また、入居者様本人の意思も反映できるようにサービス担当者会議への参加を促しているが、なかなか実現出来ておらず、ご家族の意向も踏まえた介護計画の作成が課題である。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な事でも気づきをケア記録に記入するよう努力している。 また、朝・夕の申し送りや職員会議の際に情報の共有をし、実践に生かせるよう配慮している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、介護職員もしくは介護支援専門員、管理者が対応しているが、必要に応じては外部サービスの紹介も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書が好きな入所者様に図書館の利用を支援したり、花の好きな利用者様に地域の方と一緒に手入れしていただくような工夫や支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人や家族からかかりつけ医を伺っている。特にご希望がない場合はホームの協力医に往診を依頼しているが、かかりつけ医を希望される場合は、引き続き受診が出来る様な支援を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特別養護老人ホームの看護師がホームの看護師を兼務しており、24時間連絡が取れるようにしている。また、協力医の看護師とも情報の共有を行っており、適切な医療が受けられる様に支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は管理者か介護支援専門員が病院に出向き、介護計画やアセスメントを参考とした情報の提供を行っている。 退院時は事前に病院側とカンファレンスを開催し、ホームでの生活を継続する為に必要な情報を共有している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化・終末期介護に関する指針」を取り決め書面にしており、入所時に本人・ご家族に説明を行っている。 ご本人や家族の望まれる介護を実践する為に終末期に医療や馴染みの人も含めた会議を開催することが目標である。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームで応急処置のマニュアル、かかりつけ医一覧を作成し、いつでも回覧出来る様にしている。 また、緊急時に慌てないように職員会議等で実践力を身につけるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練を1年に2回開催しており、隣接の特別養護老人ホームとも協力体制を作っている。 また、消防署にも訓練に参加していただき、適切な助言や意見を伺いながら、安全な避難方法の確立も目指している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員が中心になり、尊厳のある対応や自尊心に配慮した言葉遣いを行っているか、適切な対応を行っているかの確認を行っている。不適切な言動があれば、介護職同士で注意できる環境作りも行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなった入居者様に対しては、残存能力に働きかけたり、表情やしぐさで感情を読み取る努力をしている。 ご家族にも協力していただき、自己決定実現の為に支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れはおおよそ決まっているが、食事や入浴、就寝時間はご本人の希望に添うよう努力している。 また、レクリエーションや生活リハビリ等も個々で選んでいただいている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出等はご本人と相談しながら洋服などを選んでいく。自己決定が難しい方は職員が気候や好みに配慮しながら適切な洋服を選んでいく。 また、美容院に行くのが困難な方の為に訪問美容を利用しており、その人らしい髪型が出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者のサービスを依頼しているが、入居者様が得意な料理と一緒に作ったりしている。 また、嗜好調査等を行い、業者との意見交換の場を設け、好みの物を提供出来ている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事に摂取量の把握を行っており、必要な方は医師の指示の元で経口栄養剤を提供している。 また、お茶だけではなく、ジュースやコーヒー、抹茶等の嗜好に合う物を提供し、水分量の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝食前と夕食後にそれぞれの能力に応じた支援を行っている。 毎食後には緑茶を使用しうがいをさせていただいており、口腔内の汚れや臭いが生じないようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	口腔ケアは朝食前と夕食後にそれぞれの能力に応じた支援を行っている。 毎食後には緑茶を使用し、うがいをさせていただいており、口腔内の汚れや臭いが生じないようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個々の排便パターンの把握を行っており、便秘傾向の入居者様に対しては医師と相談し適時、適量の緩下剤を使用している。 また、便秘予防として朝食事に牛乳や野菜ジュースなどを提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者様の体調、希望に合わせて入浴時間を配慮している。 入浴を嫌がられる方に対しては、無理強いせず気分転換を促したり、一緒にお茶を飲むなどの配慮をしてから再度声掛けを行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のある入居者様に対しては、日中の活動を促すなどの配慮をし、夜間に睡眠が取れるよう支援している。それでも休まらない場合は日中に短時間昼寝していただくなど睡眠時間を確保している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳や薬剤提供シートを活用し、服薬している薬に関する用法や副作用等を把握する努力をしている。 また、誤薬を防ぐ為に服薬時に名前、日付、服用時間の再確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩が好きな入居者様は散歩に出かけられたり、花の手入れが好きな入居者様にはプランターの世話を願ったりと個人個人が張り合いや喜びのある生活を送っていただけるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い入居者様をご自宅にお連れして大変喜ばれた経験があり、職員で対応が可能な場所には職員が、遠方の場合にはご家族にお願いして外出を支援しており、ホームに閉じこもることがないように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者様は家族と話し合い、金額を決め所持していただいております、ホームでの外出や、買い物等に参加して頂き実際に支払いを行う支援をしている。 金銭の管理が難しい方については、職員が支払い等を行うが、品物は選んでいただく等の配慮をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により公衆電話の利用の支援をしたり、代筆等で手紙を出す支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を心がけ、花や緑をおきリラックスできる空間を演出している。 また、手作りの作品等を掲示し、季節感を演出し、落ち着いた環境を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の親密度に応じてソファの位置を調整したり、一人になりたい方には雑踏から離れた場所に椅子を準備するなどし、個々の希望に応じた居場所の提供をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた家具や仏壇を持参していただき、心地よく過ごせるように配慮している。 また、ベッドも心身機能に応じたものを選んで頂き、ご希望の方には畳を敷き布団で眠れるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	鉄骨作りで柱を余分に使用していないために開放感の有る広々とした環境を提供しており、歩行器や車椅子でも生活出来るような工夫がなされている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない